山　梨　北　中　学　校

「自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究」

～主体的・対話的で深い学びによる授業改善～

３年間の研究でめざす生徒像

様々な状況や学習場面に応じ，自ら考え，判断し，適切に課題解決ができる生徒

I　主題設定の理由

本校は，平成２６～２８年度までの３年間，山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業推進校」の指定を受け，確かな学力の向上と定着に向けて研究をしてきた。

研究主題を「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」とし，言語活動に視点を当て，各年度のサブテーマを下記のようにして取り組んできた。

平成２６年度「～言語活動の充実による授業改善～」
平成２７年度「～思考活動の充実による授業改善～」
平成２８年度「～思考・表現活動の充実～」

思考した考えを，より相手に伝わる方法で発信（表現）していく活動も取り入れた研究を進め，３年間の取組を通して生徒たちの学力の向上が数値にも表れてきた。

現在，新学習指導要領について見直しが行われ，中央教育審議会より新しい学習指導要領等の改善の方向性として，次の６点が示されている。

①「何ができるようになるか」　②「何を学ぶか」　③「どのように学ぶか」
④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」　⑤「何が身についたか」
⑥「実施するために何が必要か」

これらの考え方について，校内研究や多様な研修の場を通じて理解を深めることが重要とされている。①については，この３年間の研究の中で取り組まれてきた（生きて働く「知識・技能」の習得・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」）。今年度は，さらなる学びの質の向上に向けた研究・取組として③「どのように学ぶか」について視点を当てた。

また，中央教育審議会答申より下記のことが示され，今回の改定が目指す，学びの質の向上に向けて，「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践について，校内全体で取り組んでいきたいと考えた。

「子供たちは，主体的に対話的に，深く学んでいくことによって，学習内容を人生や社会の在り方と結び付け深く理解したり，未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けたり，生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができる。こうした学びの質に着目して，授業改善の取組を活性化しようとするのが，今回の改訂が目指すところである」

Ⅱ　研究の具体的取組内容と方法

1　「山北スタイル」→　思考・判断・表現力を高める取組

【教師】		【生徒】
①課題提示の工夫	・生活等と結びつく課題 ・意欲につながる課題	①課題の把握（的確）
↓		↓
②自力解決支援	・生徒自ら思考・判断・表現するための支援	②自力解決（記述ノート等）
↓		↓
③相互解決・展開	・ペア・グループ解決，全体解決	③相互解決（学び合い）
↓		↓　※協働的学習
④評価・まとめ	・評価（生徒・教師） ・まとめ（定着と繋がり）	④まとめ（学習整理） ※振り返り

2　「山北スタイル」を取り入れた授業実践

「英語」「保健体育」「道徳」で研究授業を行った。また，一人一実践授業について「山北スタイル」に基づき全教職員が実施した。

3　基礎学力定着の取組

①自主学習ノートの実施

②スコラ手帳の活用（書く習慣・時間を意識する習慣・考える習慣・計画性）

③朝学習　→　読書活動の定着

④山北サポートタイム，自学の時間，夏季学習会等　→　基礎基本の定着

4　教材教具の開発・工夫とＩＣＴ機器の活用

県の学校教育指導重点に挙げられているＩＣＴ活用に関わり，生徒の理解を支援するＩＣＴ機器の活用法について講師を招聘した研修会を行い，授業実践に活かした。

Ⅲ　成果と課題

1　成果

（1）「山北スタイル」を各教科，各個人で改善し，授業に取り入れることができた。生徒も共通したスタイルに慣れ，課題について個人で考え，グループで有意義に話し合い，課題解決に役立てることができた。

（2）「英語」「保健体育」「道徳」において研究授業を行い，「山北スタイル」やＩＣＴ機器活用について全教職員で理解を深めることができた。

（3）基礎学力定着のため継続してきた「自主学習ノート」「朝学習」「山北サポートタイム」の取組が定着してきた。

2　課題

授業において，「山北スタイル」で一定の成果を得たが，今後さらに振り返りの工夫や話し合いのスタイルの確立をしていきたい。また，基礎学力定着について「自主学習ノート」や「スコラ手帳」のより有効な手立てを考え，発展させていきたい。

（研究主任　奥山寿夫）